

Fuji こどもの家

バンビーノの森

2016年度 生徒募集のご案内

「バンビーノの森」は、ひとつの私立幼稚園が閉園することをきっかけに、理想の子育てと幼児教育の場を追求し始めた父母たちにより、2007年4月に始まった認可外保育施設です。

“森のようちえん”と“モンテッソーリ教育”を主体に、自然と育む「智」「徳」「身」を建学の精神として活動しています。

ひとりひとりを大切に、子どもたちが本来持っている力を最大限引き出すよう、保育者と家族が連携し「子どもたち」を支援して行きます。

どうぞ、一緒に！

2016年度募集園児数	3歳児	11名
	4歳・5歳児	若干名

園児募集説明会 8月30日(日) ・ 8月31日(月)
10:00~

申し込み 入園申込書を記入の上、入園金を添えて持参してください
9月1日10時より 受付開始 *1次締切 9月30日

入園決定 簡単な面接のうえ、入園決定

入園の案内 入園決定後、入園にあたっての準備品などお知らせします。

ご不明な点やご心配なことがございましたら、お気軽にお問合せください。

9月14日(月)~18日(金)を見学週間とします。

子どもたちの普段の様子をぜひご覧ください。(予約制)

☆ ホームページ・ブログ随時更新中 ☆

園日記などで活動の様子が分かります。 <http://www.bambino-mori.co.jp>

お問合せ・お申込み

F u j i こどもの家 バンビーノの森

山梨県南都留郡富士河口湖町勝山3407 (8月に引越しました)

TEL/FAX 0555-72-9995

E-mail info@bambino-mori.co.jp

Fuji こどもの家

バンビーノの森

入園のご案内

名称	Fuji こどもの家 バンビーノの森	
運営主体	株式会社バンビーノの森 代表：朝比奈茂 役員：田村孝次・横田聖美・朝比奈朋子	
場所	山梨県南都留郡富士河口湖町勝山3407 及び 周辺の山林	
開園日	月～金曜日 原則として、土日・祝祭日は休み 春・夏休み 1週間程度、冬休み 2週間程度	
保育時間	9～15時（15時30分までにお迎え）・時間外保育あり	
クラス	満3歳～6歳 異年齢混合クラス	
保育内容	AM 森を中心とした野外活動（原則として雨でも） PM 室内活動（モンテッソーリ教育）	
入園金	54,000円	*費用は税込です
保育料	30,780円/月	*兄弟割引があります。詳細はお問合せください。
昼食	手作り給食（主食持参） 1食360円（できるだけ添加物や農薬を使用していない、地域・季節を意識した食材を使ったメニュー）又は お弁当	
その他費用	教材費 10,800円（年）、生活教育充実費 24,840円（年）、 暖房協力費（10月～3月）600円程度（月）、行事費など	
体験入園	楽しく通園できるように、入園前に無料で慣らし保育が受けられます。	
服装等	制服はありませんが、野外活動の為に上下別のカッパ・リュック等と、年長時に地下足袋が必要となります。	
アフター スクール	ご希望により週2回ネイティブスピーカーの講師による、英会話のレッスンが受講できます。	

森づくり隊（保護者任意参加） 随時開催

園舎や活動場所の整備、森のブランコ・倒木のシーソー・小枝の基地作り、お父さんたちが子どもの頃になえられなかった夢を実現させたり、地域の森林環境を考えたり、パパ達が子育て談議を楽しむ、森作りを一緒にしませんか

バンビーノの森

～建学の精神～

自然と育む 「智」 「徳」 「身」

～教育目標～ バンビーノの森がめざす子ども像

- ◎自分で考え 自分で行動できる子ども
- ◎自分も 人も 地球も 慈しむ子ども
- ◎心も 身体も しなやかに 健康で たくましい子ども

～教育内容～

森のようちえん

1950年代半ば頃、最も多感な幼児期に、子どもを自然環境の中で育てたいというデンマークのひとりの母親の思いから「森のようちえん」は始まったものだと言われています。園舎がなく備え付けの遊具もない、「森」そのものが、遊び場であり、学び場であり、成長の場です。こうした考えや行動がデンマークからドイツ、スウェーデンなどへ広がりました。そして日本においても、子どもたちの体験不足や体力低下が叫ばれるなか、幼児期の自然体験活動が心身の発達にもたらす効果が注目され、「森のようちえん」の活動が広がってきています。1年を通じ自然の変化を感じながら、遊びを見つけ、創り出す、そこでは人間同士だけでなく、人と自然も協調し思いやる心が育まれます。

幼児期に自然の中でたっぷり活動をした子どもたちは心も身体も健康で、創造性・コミュニケーション力豊かに成長し、自信と責任を持って行動できると信じています。

また、今の子どもたちが大人になるころ、自然環境への配慮は今以上に必要になってくると思われます。ここで幼児期を過ごした子どもたちは、将来にわたり自然への配慮を無理なく、当たり前のこととして行動できることでしょう。

モンテッソーリ教育

モンテッソーリ教育とはイタリアで女性初の医学博士となったマリア・モンテッソーリ(1870～1952)が始めた、教育界に最も大きな影響を与えた教育方法の一つです。

子どもは自らをより良く発達させようとする力を持っていて、発達段階で手を使いたい、言語を知りたいなど、ある特定の事柄に特別な感受性を発揮する時期があります。これを「敏感期」といい、この時期に本当にやりたいことに出会ったとき、子どもはその作業を繰り返し、集中します。作業の過程で得た集中力と達成感、満足感が子どもの人格形成にとっても良い影響を与えます。モンテッソーリ教育の内容は日常生活の練習、言語教育、数教育、感覚教育、文化教育など様々ですが、それぞれを教えるのではなく敏感期を見逃さずに支援してゆく活動です。

芸術活動

「バンビーノの森」では“水彩お絵かき”と“オイリュトミー(身体表現)”“陶芸”の専門の先生を年数回お招きし、日常の芸術活動のアドバイスを頂きながら子どもの心と感性を育てています。

バンビーノの森

『自然体験活動と安全教育の意義』

野外で行う様々な自然体験活動は、自然を理解し、自然や人に対する慈しみ心を養うばかりでなく、子どもの自主性や社会性、協調性を身につけ、主体的な取り組みや問題解決のための意欲や能力を備えて行く手段としての「体験から学ぶ」総合的学習であり、子どもたちの「生きる力」を身につけるための大切な教育活動のひとつであると考えます。また、恒常的に安全欲求の強い人間にとって、一般生活環境外の活動は、危険因子の縮図である。しかしこれは絶好の「安全教育」のフィールドであるとも言える。危険を回避する能力は、机上の理論や観念では十分に身につかない。自然体験活動の教育的意義同様、安全教育も十分な能力を身につけるためには、「体験から学ぶ」具体的な失敗や成功経験の積重ねが習得のキーとなる。昨今の教育現場では、諺「君子危うきには近寄らず」が現状である。言わばこれは、危険に対しては最も安全で確実な態度と姿勢であるが、これでは安全教育が成立しないことを意味している。当園は、「野外活動管理者のレスキュー及び安全管理能力の精度とクオリティーの向上に努め、子どもたちの活動を見守る」・・・これを教育の大切な柱の一つとして位置づけるものである。

安全担当 田村 孝次

(株)エコビジョンブレインズ (カントリーレイクシステムズ) 代表取締役

『山遊びのススメ』

人間形成に必要なあらゆる基礎が幼児期に養われることは良く知られています。もっというとこの時期に適切な刺激を与えないと後から修正しようとしても手遅れになってしまいます。私たちは、幼児期というわずかな数年間、大切なお子さんの一生を左右する時期だと思っています。数年前から都内では幼児体育が流行っています。背景には子どもたちの体力の低下が関与していると思われる。リトミック、サッカー教室、マット運動、器械体操など・・・そのプログラムは、からだの発育・発達に沿って適切な時期に必要な刺激を与えることで効率よく体力がつくように理論的にプログラミングされています。私たちの園では、富士山のふもと、河口湖の自然を利用して、幼児期に必要な体力要素の獲得をめざしています。幼児期に鍛えなければいけない体力要素は、平衡（バランス）性と巧緻（巧みさ）性であり、神経系の発達に伴って獲得されます。一般的な園庭や体育館はその地面は平らで安全です。しかし、そのような場所でいくら活動をしていても、バランス感覚は身につけません。また、規制の運動用具でいくら遊んでも型にはまった巧みさしか身につけません。山には一つたりとも平らな箇所はありません。山歩きは常にバランス運動を行っているといえます。またアップダウンがあるため、ほどよい筋力もつきます。もちろん心肺機能も自然と備わっていきます。木から下がっているツルをロープのように使ってターザンごっこ、森の中での鬼ごっこ、木登り、枯れ木あつめ、的をめがけて松ぼっくりを投げる。まだまだたくさんの遊び方が山にはあります。楽しく遊んで、必要な体力が獲得できる。また想像力も養われる。まさに理想的な運動スタイルだと思いませんか？私たちは、山での活動を基本として、幼児期にひつような体力要素の獲得し、総合的な体育活動をめざして行くことを理念としています。

体育担当 朝比奈 茂

法政大学人間環境学部准教授

バンビーノの森

『森のようちえんとモンテッソーリ ～補完し高めあう教育～』

Fuji こどもの家バンビーノの森は、“森のようちえん”と“モンテッソーリ教育”を融合させた保育を行っています。「まったく違う2つのことをやっている」という人もいますが、共通点もあり、違っているところがまた大切なところだと考えています。

“森のようちえん”と“モンテッソーリ教育”の共通点は大きく2つです。

第一に、“自由保育”、第二に“異年齢保育”であるということです。

そして異なるところは、モンテッソーリ教育では様々な“教具”といわれるおもちゃを使った活動を行うことに対し、森ではあらかじめ用意されたおもちゃはなく、野外での活動が中心ということです。多くの場合はこの部分が目につくので、「まったく違う」という印象になるのでしょうか。

【自由保育】

自由保育は子どもの主体性を尊重し、その子がやりたいことを自由にすることを支援するというのが概ね一般的な理解です。

自由な活動を維持するには子どもの社会であってもルールがあり、それを守ることがとても大切です。保育者は子ども達が自由に活動する環境（場所や物、人など）を整えます。

バンビーノの森ではこの環境が“森”と“教室”の2か所あります。

活動場所が“森”でも“教室”でも、保育を行うときにはモンテッソーリが大切にしたい子どもを良く観察することが活かされます。

マリア・モンテッソーリは「子どもの発達の手順や興味の現れる順番は個人差が大きいので、一人一人を良く観察することにより『敏感期』を見逃さず支援することが、子どもはストレスなくその時期に獲得すべき能力を効率的に体得してゆくことができる。」と述べています。

森のようちえん活動も、モンテッソーリ教育の中で行われている「自分で始める（選ぶ）→繰り返す→集中（熱中）する→自分で止める（達成感）」この繰り返しです。

教室では“教具”といわれるおもちゃや教材を適宜入れ替えますが、森では天候や季節が環境を変えてくれます。保育者は言葉かけやちょっとした仕掛け・小道具を用意したりして、子どもがそれに気付くように促します。

【異年齢保育】

3歳～6歳の異年齢混合での保育は子ども同士の学び合いが、同年齢でのクラス編成で活動している時より多いことが特徴です。

自由保育で“森”でも“教室”でもたくさんの遊びの可能性があり、それを自分で自由に選べる環境が用意されている場合は、特に異年齢の子どもと一緒に活動することで遊びの幅も広がり、子ども達の学びも広がります。小さい子は大きい子にあこがれ、大きい子は小さい子に教えることで、学びを深め、コミュニケーション能力を高め、おもいやりの気持ちも育みます。兄弟が少なく、近所の子ども同士で遊ぶ機会が減っている今日においてはとても貴重な時間です。

【モンテッソーリと森】

モンテッソーリの開発した教具はそれぞれ目的があり、スモールステップで達成感が味わえるように、秩序的にとっても整っています。

例えば“小さい～大きい”、“軽い～重い”“短い～長い”などが等間隔で視覚的にも触覚的にも理解しやすいようにできています。

森の中にも小さい物から大きい物まで色々なものがありますが、均等ではありません。時には“大きいのに軽い”“小さいのに重い”というものまであります。

子どもたちはモンテッソーリの教具で秩序的に理解し、森で均等幅ではないけれど、“小さい・大きい”を体感し、学びを深めます。また、森で体感したことをモンテッソーリの教具で整理し確認します。秩序的に並べられるものは理解しやすいですが、世の中にはその中間や言葉では説明しきれないことがたくさんあります。子どもたちは両方を身近におき、生活することで効率よく理解を広げていくことができます。

モンテッソーリ教育というと、教具を使って個々の能力をいかに早く向上させるかのようにとらえられることも多いですが、本当に大切なのは教具よりも“「敏感期」を見逃さない事”であったり、“本物を与える事”であったり、“沢山の達成感を感じる事から集中力を養うこと”などです。これは森のようちえんでも同じです。

子育ての目標は“自立”。

マリア・モンテッソーリは、“「わたしが ひとりでできるようにてつだって！」と子どもは呼びかけている”と言っています。このことを忘れないようにしたいものです。

子どもは一人ひとり違う個性を持っています。大切なのはそれを自ら主体的に発揮していくことです。変化の激しい社会の中でも、常に自分で考え、行動し、どんなことがあっても柔軟な対応ができる人に育ててほしいと願っています。

横田 聖美

森のようちえん全国ネットワーク運営委員

『ランチ』

身体にいい食材・自然と食に感謝する心を育てゆきます。

調味料も充分吟味し、野菜はこの地域で取れた季節のものを主に使っていきます。春には春の、夏に夏の「旬」のものをいただき、「季節のある国」に育つ幸せを一緒に感じていきたいです。自然・食物に関心をもつ感性豊かなこども、その恵みに感謝するこどもに育てて欲しいと言う気持ちで、毎日キッチンに立っています。

調理担当 小山 れい子

Fuji こどもの家 バンビーノの森 保護者のこえ

年少児 母

家から距離があるので送り迎えは大変な時もありますが、それ以上に行かせてよかったと思うことばかりです。この半年、森に通う中で親も驚くほどの体力がつかえました。外で思い切り遊ぶだけでなく、午後の教室でのお仕事のおかげで集中力もつき、動と静のバランスがとれることにも魅力を感じます。

また縦割り保育なので、自然と大きな子が小さな子を見てあげたり、小さな子は大きな子のする事を見てあんな風になりたいと目標にしたり…と人数の多いきょうだいのような何とも温かい雰囲気がいいな～と思います。

上の子は引っ越しのため、ふたつの公立幼稚園に通いましたが、バンビーノのように子どもが主体で、自然の中でのびのびと遊べて、それぞれの個性や“やってみよう”という気持ちを大事にしてもらえるところはなかなかないと思います。

先生方の子どもへの接し方を見て、私も学ぶことばかりです。子どもが着たい服を着せる。子どもを信じて待つ。笑顔で語りかける…など。つい親の都合を優先しがちになりますが、親も子どもと一緒に成長中です。

縁あってバンビーノに出会えたことに感謝しつつ、娘がこれからどんな風に成長してゆくのか、楽しみにしています。

年少女児 母

3歳と同時入園しました。保育園に行くのを嫌がって毎日泣いていた娘が、バンビーノに行き始めたたん泣かなくなりました。何をしてきたのか、誰と遊んだのか、自分の言葉で生き活きと話してくれる姿に、本当に入園できて良かったと感じました。

バンビーノの仲間になり9ヶ月ですが、体のバランスが良く風邪をひきにくくなった他、とにかく言葉や内面の成長が著しいです。お友達を思いやれるようになったこと、大声を出さずにコミュニケーションが取れるようになったことが特にうれしい変化だなあと感じています。心も体もすこやかに育っている様子に、今後の成長も楽しみな毎日です。

卒園児保護者

息子は年少から3年間、バンビーノにお世話になりました。

初めは、険しい山道を先生に手を引かれながら、一步一步登っていましたが、いつの間にか、駆け登れるようになっていました。体力面はもちろん、他にもいろいろなことを大好きな森から学んで、得てきたと感じています。部屋を飛び出し、遊具があまりない外で遊ぶことは、今の時代は危ないからと言って、なかなか経験させられませんが、想像力を働かせながら自然の中で遊ぶこと程、楽しいことはないと思います。

園から頂く子供達の写真を見ていると、自分が通いたくなるくらい楽しそうに羨ましくなってしまいます。森だけではなく、モンテッソーリのお仕事の時間では生活に密着した動作や、文字、数の概念などを教えて頂き、親としても、とても参考になりました。

お料理の日も、自分で作った料理は格別においしい事を知り、食に対する興味も深まりました。よく、家でも園で作ったおやつを、息子が先生になって教えてくれました。

クラスがなく縦割りなので、上の子の真似をしたり、下の子の面倒を見たりと、まるで小さな社会で暮らしているようで、よい学びの場でした。

小学生になると、遊ぶ時間がグンと減ってしまうので、ようちえんの内に、目一杯遊んで、たくさんケンカして、自然からパワーをもらい、たくましく生きていって欲しいと願っています。

卒園式の夜、「大好きな森に行けなくなるなんてイヤだあ～」と号泣していたのを見て、悲しかったですが、息子にとってかけがえのない宝物ができてよかったなあと感じました。